

Rotary
Club of KOBE EAST



The Rotary club of Kobe East Bulletin

神戸東ロータリークラブ会報

No.378 2015-2016 No1

表紙絵：太原 震也元会員

会長／道上 明 副会長／岩野 了 幹事／鮑 悦初 雑誌会報委員長／弘田 芳裕 副委員長／田中 寿夫

例会場：ホテルオークラ神戸 例会曜日：毎週火曜日

クラブ会長テーマ 「－ 原点をみつめ、愛あるロータリー活動を－」



世界へのプレゼントになろう

RI President

K. R. “ラビ” ラビンドラン
2015-2016年度国際ロータリー会長





神戸東ロータリークラブ
会長
理事 道上 明

2015～2016 年度 会長テーマ
Reflect upon Rotary Club's origin and
conduct heartfelt activities.

「一原点をみつめ、愛あるロータリー活動をー」

2015-2016 年度、伝統ある神戸東ロータリー
クラブの会長を拝命いたしました。誠に浅学非
才の身であります。会員の皆様方の御協力を
得て、一生懸命頑張りたいと存じますので、
何とぞよろしくお願い申し上げます。

最初に、簡単に自己紹介をさせていただき
たいと存じます。入会は、平成7年5月9日、推
薦者は有澤武先生と村田先生でした。職業分類
は弁護士です。

まず、2015-2016 年度の国際ロータリー会長
は、K.R. “Ravi” Ravindran (K.R “ラビ” ラビ
ンドラン) 氏です。スリランカ・コロンボ RC
の所属です。テーマ、「Be a gift to the world
ー世界へのプレゼントになろうー」というもの
です。

私達の人生には、いつか終わりが訪れます。
しかも終わりは思ったより早く来るものです。

「この限られた人生をどのように過ごしたらいい
のでしょうか。」と問いかけます。

そこで会長は、人は、才能、知識、能力、努
力、献身、熱意など誰でも与えることのできる
何かを持っているはずです。「ロータリアンは、
ロータリーを通じて、世界へプレゼントするこ
とで、誰かの人生に、そして世界に、真の変化
を起こすことができるはずです。」と答えます。

ロータリーは、人生で本当に大切なことに目
を向け、私達自身が世界への贈り物となる方法
を見つけることで、より充実した意義ある人生
を送れるよう、私たちを導いてくれるのです。
そして、「私達の人生の価値は、どれほど得たか
ではなく、どれほど与えたかによって判断され
るのです。」とも述べます。

最後に、授けられた才能と持ちうる力の限り
を尽くして、世界へのプレゼントとなることの
できる1年です。このために皆さんに与えられ
た時間は1年です。この時間はあまりにも短
く、成すべきことはあまりにも多い。「信念」「情
熱」「才能」を捧げるだけでなく、「皆さん自身
を世界へのプレゼントとして捧げて下さい。」
と力説されています。

次に、2015-2016 年度の地区・ガバナー丸尾
研一氏(神戸西神 RC)です。行動方針は、「Try
hard to enjoy pure Rotary ー真のロータリーを
一生懸命楽しみましょうー」です。

第 2680 地区の現状として、次の3つの問題
を指摘されます。

(1)会員数の減少

(2)地区財政の悪化

(3)実施プログラムのマンネリ化

(1)会員数の減少については、どうすれば、現象

を食い止め増加にもっていくことができるだろうかを検討しなければならない。

(2)財政悪化の問題

会員数の減少は当然地区分担金の減少となり、又、地区の運営経費は高止まりであります。地区の財政は危機に瀕しています。本年度、赤字予算であります。地区財政を豊かにする方策を考えなければなりません。

(3)実施プログラムのマンネリ化

通年行事や行動を単に踏襲しているだけではないのか。又、セミナーが年中行事化し感動が希薄化していないか。活動するメンバーが固定化していないか検討してほしい。と述べています。

(4)そのために何とかしてロータリーの魅力が取り戻せないか。一人一人が考えてほしい。このような考え方にたって、活動方針を考えたものである。と述べておられます。

私の本年度のテーマは、冒頭に記載した通りです。

1 まず、ロータリーの原点、あるいはロータリーのあるべき姿とは何かを考えてみたいと思います。それは当然のことながら、①一業種一会員制の原則、②規則的例会出席の原則をあげなければならないと思います。

①はすでに制度的には破綻をしているとも言われる。

しかし原理的には、やはりロータリーの中核的原理と思われます。

その地域のその業種を代表する人物がロータリアンとなり、真の親睦を重ね、奉仕活動を行う。これが、やはりロータリーの原点だと思うのです。

そこから、導かれる例会の形は基本的には

ロータリアンが、自己の職業について卓話する会員卓話を中心となるべきではないか、ということ。そして、この卓話を全てのロータリアンが聞く例会出席重視が重要ということになるのではないかと考えます。

すなわち、神戸東ロータリークラブのメンバーは、皆、その業界の代表者です。その立派な異業種の代表者の卓話を聞いて自らを磨いていく。これが例会の大きな意味であり、これを大切にしたいと思います。一方、多くの会員卓話をお聞き頂くことが、世代の異なる会員の交流の一助になるとも考えます。又、ロータリーは、「個々のロータリアン一人一人が奉仕活動をする。」これが原則とされています。ロータリークラブは、その個人を育てていく場と考えられます。

このこともきちんと見据え、活動をしていきたいと思っています。

ただ、勿論これは理念ですから、このままの形ですべての諸活動を進めることはできません。

神戸東ロータリークラブには、諸先輩がつくられた歴史があります。その歴史と伝統を引き継ぎながら将来の展望を考え、奉仕活動の一つでも多く考えていきたいと思っています。

1年間ですから、たくさんすることはできません。一つでもいいですから新しい事に挑戦して頂きたい。

2 ロータリーの原点のもう一つとして、愛ある活動をあげました。

これは、別の言葉でいえば、形式に流されるのではなく、真心をもって、ロータリー活動を行ってほしいということです。

これは、ガバナーの行動方針(3)と共通するも

ので、心のこもった愛のある活動を各委員会で
お考えいただきたいと思います。

3 次に、ロータリー生活を皆で楽しくやって
いこうではありませんか。ロータリー生活は楽
しくなければ長続きしません。のびのびとカ
ー杯楽しんで下さい。例会もそうです。会員卓話
の担当となっても楽しくやろうではありません
か。例会に出ることがワクワクするようになっ
てもらいたいと思っています。

4 ロータリーも集団であるが故に、この組織
を維持・発展していかなければ将来の展望はあ
りえません。私達は、ロータリーに夢をもって
入ってきました。この夢を多くの人に入会とい
う形でお知らせしなければなりません。

今年度から、会員増強委員長を理事にしてい
ただき、理事会でいろんな情報を得て、会員増
強に努力して頂きたいと思っております。その
ような、人材を発掘する中で女性がおられれば、
女性も入会していただくことを、積極的に考え
ていい時代にきているのではないかと考えてい
ます。

念のため申し上げますが、この問題は微妙な
問題を含んでいることは承知しています。女性
会員をわざわざ入会してもらおうということでは
ありません。

会員にふさわしい人がたまたま女性であった
とすれば、メンバーの皆様の御意見をお聞きし
ながら、入会を検討すべき時にきているのでは
ないかと考えているのです。

5 上記とも関連しますが、公共イメージも重
要であります。ロータリーの認知度は、まだま
だ低いと言われています。ロータリーの成功談
を地区と共にメディア、地方自治体、地域の市
民などへ伝えたいと思います。そのために昨年

も実施された「ロータリーデー」の実施を検討
したいと考えています。ロータリーの活動を地
域の市民の人に知ってもらい、地域の人々と共
に奉仕の理念を共有したいものです。そして、
その中で新しく仲間が増えていくことが可能と
なれば何と楽しいことでしょう。

6 神戸東ロータリークラブは、本年創立 62
年を迎えます。長い歴史の中で、種々活動をさ
れてきました。今年は、一度、ロータリーの原
点を見つめ直し、ロータリーとは何か、自分は
ロータリアンとして何ができるかを考え、愛を
もってロータリー活動を実行できる一年にして
いただきたいと思っています。

皆様の御協力をよろしくお願い致します。





副会長
理事
クラブ奉仕委員長

岩 野 了

この度、副会長の大役をさせて頂くことになった岩野です。

ロータリーに入会して14年、理事会に連続して5年（どうやらそんな暇な方は私だけの様です）参画することになるのですがその割にはロータリーのことクラブのことも未だにあまり良くわかってはいません。真面目に学びなさいとの戒めと受け止め1年間勤めさせていただきます。

ただ、副会長はROSTER歴代リストに掲載されることもなく、先輩副会長からも「記録にも記憶にも残ら無いのが一番！」と聞き及んでいますので道上会長・鮑幹事の足を引っ張り無い程度に、少しの理事役員の経験をお伝えしながらお二人のサポート役に徹していきたいと思っています。

その分の余力はクラブ奉仕委員長として励みます。会長方針に添ってロータリーの原点である「例会を楽しく！」の実現を目指すことに。例会は会員相互が「出会う、交わる、語らう、知る・学ぶ、伝える」多くの機会を得られる場です。例会に参加したくなるそんな例会になる様に各委員長様方には例会をサロンだけでなくメディアとしても捉えていただき積極的に例会の活用を是非お願い致します。

フレッシュな菅野・林・中尾委員長から経験豊富な野田・角田委員長までクラブ奉仕を支えてくださる委員長様方をご紹介します。

＜出 席＞藤井委員長

クラブ奉仕副委員長も兼ねて頂いています。長期で例会に参加出来て無い方々のフォローよろしくお願いします。

＜親睦活動＞菅野委員長 ＜家 族＞林委員長
ヤングコンビで伝統を守りながらも若さを武器にした楽しい親睦の機会を多く仕掛けて頂くのを楽しみにしています。

＜プログラム＞中尾委員長

顔の広さを活かしながら、多士済々の委員の方々に加え会員の豊かな経験を学び知る事で新たな発見が生まれるといいですね。

＜週 報＞樋口委員長 ＜会 報＞弘田委員長
ロータリーの公共イメージの醸成として広報が大切と言われています。対外向けの広報をホームページなどで共に進めましょう！

＜ロータリー情報＞野田委員長

ロータリーの学びの場が減ってきていると言われているのでその強烈なリーダーシップに期待しています。

＜会員増強＞ 樫野委員長

票集めから人集めに。交流会を重ねる中で良い出会いが生まれれば良いですね。女性会員の話題も出始めているますが慎重に検討しながら前進させましょう！

＜会員選考・職業分類＞角田委員長

クラブ奉仕全般へのご指導もよろしくお願いします。



幹事 鮑 悦 初

道上会長とはある団体で知り合い 30 年近いお付き合いに成ります。一昨年の 11 月ごろ“鮑ちゃん、幹事やってくれへん？”と頼まれました。幹事の重責も知らず、旧知の仲で“僕で良ければ”と安請け合いしてしまい今日に至ってしまいました！見よう見まねでも何とか皆様にご迷惑を掛けずに頑張ってまいりますので、今日から始まる一年間どうぞ宜しくお願いします。

道上会長の活動方針の中に“ロータリー生活を皆で楽しくやっというではありませんか。ロータリー生活は楽しくなければ長続きしません。のびのびと力一杯楽しんで下さい。例会もそうです。会員卓話の担当となっても楽しくやろうではありませんか。例会に出ることがワクワクするようになってもらいたいと思っています。”と考えが書かれています。

我がクラブに限らず、近年多くのロータリークラブが会員減少に悩まされ、増強に苦慮しています。これには経済状況も大きく影響していると思われますが、私はロータリークラブの活動に魅力が無いのか？楽しく無いのか？または外部

の皆さんにロータリークラブ活動の魅力、楽しさが伝わっていないのではないかと思います。

今年度、理事役員、各委員長はじめ我々ロータリーメンバー皆でロータリークラブのあり方、あるべき姿「原点」を見つめ直し、楽しいロータリーライフ、楽しいロータリー活動を企画、目指して頂きたいと考えています。皆で我々神戸東ロータリークラブの魅力、楽しさを模索し、色々な奉仕活動はじめ我々神戸東ロータリークラブの活動を地域の皆さんに発信して行くことが出来れば我がクラブの増強、強化に繋がれると考えています。各委員長はじめ委員会の皆さん魅力有る、楽しい委員会活動の企画を宜しくお願いします。それが、道上会長の活動方針の体現に繋がると考えています。

皆さんと共に、さらに楽しいロータリークラブライフ、活動を目指して行きたいと考えています。皆様のご理解、ご支援どうぞ宜しくお願いします。





職業奉仕委員長
理事 大澤 勇

職業奉仕委員長を仰せつかった大澤でございます。

前年度も委員長挨拶の代読をさせて頂いたので、2年連続で挨拶をさせて頂く事になります。同じような事を申し上げる事になるかもしれませんが、ご容赦をお願いします。

本年度4月29日にポートピアホテルにて地区協議会が開催されました。職業奉仕の分科会で、資料を頂きました。その中に「職業奉仕の概念」に関する部分が有りましたのでご紹介します。

職業奉仕を明確に定義することは簡単ではありません。ロータリーの声明に4項からなる「ロータリーの目的」があります。職業奉仕はこの第2項を土台としております。

第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする。

高い倫理基準の実践を通じて高潔性を推進することは、ロータリアンとして不可欠の要素です。その中で生まれたのが「四つのテスト」と「ロータリーの行動規範」であり倫理的行動を実践するための指針となっています。

私自身もまだまだ未熟ですので、この様な高邁な考え方においては、皆さんと一緒に勉強し

たいと思います。難しいテーマですが、出来るだけ分かりやすく簡単に表現できればと思っていますので、私自身の考え方をご紹介します。

(私自身の考え方)

職業奉仕という事で基本的に大事な事は、毎回例会に参加し、色々な職業人と出会い語り合い、情報交換する事で知り学び、そこで得た事を基に職業を通じて奉仕を実践する事だと思います。

具体的活動については、まず本年度10月27日に職場見学を予定しております。ここ数年は会員の皆様の職場訪問という事でしたが、ちょっと視点を変えて、我々の住んでいる「神戸市の今」という事に注目したいと思います。具体的には医療産業都市としての現況とスーパーコンピュータ京の役割という事です。

其の他の事業といたしましては、今年12月6日(日)には地区の職業奉仕セミナーが開催されます。時間・場所については未定です。昨年度は神戸東急インで3時間30分の研修でお二人のバスターガバナーによる講演があり「会社はだれのものか」・「企業の社会的責任 CSR」という非常に興味深いものでした。今回も多数のご参加をお待ちしています。

来年1月19日(火)には職業月間卓話を予定しています。具体的には後日連絡を申し上げます。

来年3～4月頃には障害児の就労支援への対応に関する卓話を用意するという事で現在構想を練っています。

以上で、職業奉仕委員長としての挨拶を終えさせていただきます。ご静聴有難うございました。



社会奉仕委員長 理事 宮 昭 久

本年度、社会奉仕委員長を仰せつかりました宮昭久でございます。この壇上でお話をさせて頂くのは、平成19年5月の新入会の自己紹介以来でございます。宜しくお願い致します。

さて、本年度が始まりまだ2週間でございますが、私の委員長としてのお仕事は、2月1日地区補助金セミナーから始まっています。気分的には任期の折り返し地点に入っているような感じがいたします。

本年度の具体的な活動といたしましては、

- 1) 神戸市立青陽東養護学校生徒の招待ボウリング
- 2) 神戸市立友生支援学校生徒の招待ボウリング
- 3) プロバスクラブ支援
- 4) 日本熊森協会支援
- 5) 神戸市立友生支援学校に対し、「知的障害学校における非常災害時対応支援」と題し、地区補助金申請をし、「弱者支援及び教育支援」を行います。

上記の活動計画でございます。

委員会も開会せずに本日に至っております。もう、すでに地区補助金申請も終わり、お金の振り込みを待つのみとなっております。理事会でお話、承認を得ての事ですが、不安がつります。

また、プロバスクラブ支援についても7月9日に終了いたしております。活動内容を変更したいと思った時には、すでに終わっているという現状です。

久野薫ガバナー年度に随行員として、いろいろなクラブに連れて行っていただきました。その折に久野パストガバナーは、「ロータリーの事を勉強しないでロータリーを語らないでください。」と常におっしゃっておられました。

今年に入ってから、ロータリーで言う社会奉仕について、ロータリー情報マニュアルや手続き要覧を熟読してしまいました。ロータリーで言う社会奉仕が見えてきた、理解できるような気がする・・・アホな～っていう感じで、ハット思いました。あかん！このままでは、ロタキチになってしまう！と気づきました。また、最近どうも理事会で私の発言が多くなっている気がしますのでロタキチにならぬよう控え目にいたします。

先日、7月10日に地区補助金管理説明会に出席いたしました。やはり、難しいロータリー用語がとびかい、何を言ってるのかチンプンカンプンでした。私なりに、ロータリー用語を羅列し文章をつくってみました。

「DDFにおけるDGおよび、GGは、TRFによってもたらされ、TRF補助金プログラムへの参加資格を得るためMOUは、必須条件である。恒久基金からDDFおよびWFにも分配される。」

正しいのか何なのかは解っていませんのでこの文章についてのご指導は、ご勘弁いただけますようお願いいたします。

何を言ってるのか、RI会員の方々はよくわかっておられるでしょうが、末端のクラブ会員の社会奉仕委員長には全く判りません。

このようなことから、今年度の私の目標は、理解しやすい社会奉仕を皆様のご協力を得ながら進めてまいります。今年度、社会奉仕委員長のあいさつと、かえさせていただきます。



国際奉仕委員長
理事 井元 憲生

この度、国際奉仕委員長を拝命させていただきました、井元憲生です。どうぞ一年間宜しくお願い申し上げます。

さて本年度の国際奉仕委員会は、道上会長の活動方針「原点を見つめ、愛あるロータリー活動を」を念頭に置き、RI 理念による国際的な相互理解・親善・平和のための活動を推進していく所存です。

具体的な活動内容としましては、

- ①シスタークラブとの交流を維持・発展に努めます
- ② VTT (職業研修チーム) への協力支援を積極的に実施します
- ③国際奉仕に関する問題の対応を実施します
- ④ロータリーソウル国際大会への参加企画を立案し、積極的に実施します

この4つの項目がこの一年の活動の重要ポイントですが、特に今年は、④ロータリーソウル国際大会が隣国の韓国で開催されます。皆様でご参加していただきやすい環境と交通機関も整っておりますので、たくさんの方に出席して頂けると幸いです。もちろん、今流行

りのマーズが下火になることが最低条件でございます。もしマーズの勢いが止まらない場合でもご参加されたい方は、どうぞ勝手に単独でご参加ください。

ちょっとここで国際奉仕の基本的理念である国際的親睦の会の IYFR について、少しご紹介いたします。IYFR は、「ロータリアン国際ヨット同好会」と称され、1947 年にロータリークラブが公認した、世界で一番古い国際親睦グループです。ヨットや海を愛するロータリアンの集まりで、現在、世界 32 カ国、90 フリート、3,200 名以上の会へと成長しました。神戸東ロータリークラブ内にも同好会がございます。もちろん私も入会しております。皆様にもご入会頂けましたら、ロータリーの国際奉仕の目的の一つである国際親善と親睦により近づくことになると思いますので、IYFR のご紹介を同時にさせていただきます。

本日は長々のご挨拶をご清聴いただきありがとうございます。最後になりますが、本年度の国際奉仕メンバーに関しては、活動方針に記載しておりますので、ここでは説明を省略させていただきます。皆様、一年間宜しくお願い申し上げます。



青少年奉仕委員長 理事 **福原 敏 晃**

今年度の青少年奉仕委員長を任命されました福原敏晃です。

青少年奉仕活動は、インターアクトクラブ（12～18歳の若人で構成され、指導力・思いやりの心・他人の尊重・地域社会、国際社会の理解などを学び実践する場）・ローターアクトクラブ（18～30歳の青年男女で構成され、個々の能力開発を高め、会員相互の親睦を深め、また社会への奉仕活動を行う場）・ライラセミナー（ロータリー青少年指導育成プログラム）・青少年交換（15～19歳までの青少年の留学機会を提供する構成プログラム）・学友クラブ（国際ロータリーとロータリー財団のプログラム学友の間の絆を育み地域リーダーの育成・連携による社会奉仕活動の基盤）・青少年保護（危機管理を考えロータリー活動に参加する全ての青少年の安全環境維持に努める）などの事業内容で、ロータリーに於いて次世代を担うリーダー、またロータリアンとなるべき青少年を育成する役割であると理解しております。

今年度の青少年奉仕委員会では道上会長のテーマ「原点をみつめ、愛あるロータリー活動

を」を青少年に伝え、思い出に残る活動にしていこうと考えております。心強いメンバー（吉田茂副委員長・光葉・森本・吉井・横山（公）・田中（義））と共に頑張ってまいります。

今年度の当委員会の主な活動は、

①王子動物園主催の「永田萌さんとの写生会」を後援し、幼児・小学生らが写生の楽しさと目的をもって家族と一緒に過ごす喜びを実感できるようにお手伝いをする。（11月29日（日）実施予定）

②神戸市中央区少年野球大会を後援する。（10月18日（日）実施予定）また、今年度は女子小学生のなりたい職業№1がパティシエであるので、その夢の実現のためにお菓子教室を体験して頂き、パティシエとはどんな職業かを実感して頂く。（小学4・5・6年生対象、2016年3月実施予定）

③引き続きすばらしいリーダーを育成するライラセミナーへ参加者を送る。

④新世代のための目的に於いて卓話を提供する。（内容については検討中、2016年5月実施予定）

等の活動を通じて青少年にロータリークラブをアピールしていきたいと思います。

一年間、委員会のメンバー全員参加で無理せず青少年の思い出に残るように精一杯活動してまいりますので、何卒ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。



国際ロータリー第 2680 地区

ガバナー 丸尾 研一 (神戸西神)

私はロータリークラブ入会 26 年になりますが、ロータリーとは何かということをずっと考えてきました。人生には、物事を一変させるような、極めて重要な瞬間があります。その後のあらゆる経験は、この瞬間を基軸として測られることになります。

私にとって、人生のターニングポイントはロータリークラブへの入会でした。あらゆる人生観、価値観が変わり、多くのものを授かりました。ロータリーは一つの人生哲学であり、私たちが人の心の美しさを学ぶためにあると考えます。そのために毎週の例会があり自己研鑽をはかり心を育てる場所であります。

110 年前、ロータリーは友との集い「例会」から始まりました。それは今でも変わりません。ロータリーへ入会するということは、例会に出席するということです。クラブがあって例会が開かれるから、あなたが出席するのではありません。あなたが出席するために例会が開かれているのです。例会は、ロータリーの出発点です。例会がなければ、クラブは成立しません。どんな大きなクラブでも土地も建物もありませ

ん。

私はビジネス社会に生きています。日々競争にさらされていますので、私にとって例会は非日常の世界であり心のオアシスでもあります。これからの私の人生は恩返しをしなくてはなりません。

ここで今年度 RI 会長 K.R.Ravindran 氏を紹介いたします。彼はスリランカ、コロンボロータリークラブ所属であり、プリントケアという会社の CEO であります。この会社はティーバッグの印刷と袋を日産一億袋以上生産しており世界的なシェアを持っています。私たちもどこかで彼の会社に貢献しているかもしれません。

今年度 RI テーマ Be a gift to the world 「世界へのプレゼントになろう」というシンプルで深いテーマです。K.R.Ravindran 会長は、このテーマを考えているとき、ヒンドゥー教を通じて学んだ教訓を思い出しました。これは非常に貧しい少年スダマの物語ですが、これは今月の月信に書きましたので割愛させていただきます。

今年の 1 月 18 日、国際協議会において Ravindran 会長はスピーチの冒頭からこう言われました。

「私たちの命は永遠でなく、人生にはいつか終わりが訪れます。そしてその終わりは思ったより早く訪れます。しかし、そのことを忘れがちです、この限られた人生をどのように過ごしたらいいのでしょうか。」

ロータリーで私たちは善き行いを目指しています。大勢の人に人間の尊厳を与えたアブラハム・リンカーン。疎外された人たちに慈悲の心を捧げたマザー・テレサ。虐げられた人たちに平和的な変化を与えたマハトマ・ガンジー。彼

らは皆、人びとのために人生を捧げ、自らが世界へのプレゼントとなって、自分自身を捧げました。何よりも大切なことは、品物でもなく、お金でもなく、自分自身を捧げることです。ただ「手渡す」と「手を差し伸べる」のには大きな違いがあります。特に、思いやりの心をもった温かい手であればなおさらです。だからこそ、皆さんにお願いします「世界へのプレゼントになろう」。

私たちの第一の課題、そして最も重要な課題は、ポリオの撲滅です。25年以上前に私たちがポリオ撲滅の誓いを立てたとき、125ヵ国にポリオが常在し、毎日1,000人以上の子どもがポリオによる麻痺障害を患っていました。現在、ポリオ常在国は3ヵ国、そして昨年のポリオ症例数はわずかとなりました。そのほとんどは、パキスタン一国から報告されたものです。この国で私たちが闘う相手は、ポリオウイルスだけでなく、無知、残忍さ、抑圧の力です。私たちの課題は、ワクチンを子どもの口に届けるだけでなく、殺戮者たちから予防接種従事者を守ることでもあります。パキスタン政府と市民は、ロータリーとともに、ポリオのない未来を実現するために力を尽くしています。私たちは闘い続け、必ずや勝利します。なぜなら、私たちは、ポリオのない未来をプレゼントすると世界の子どもたちに約束したからです。

ロータリーは膨大な可能性を秘めています。しかし、多くのクラブや地区の現実には目を向けると、ロータリーのあるべき姿が映し出されていません。当組織を形づくった基本に立ち返る方法を見つける必要があります。それは、人生のあらゆる場での高い倫理基準、そして、各クラブに会員の多様性をもたらす職業分類です。

これらは、会員増強の足を引っばる障害に過ぎない、と見られることがあまりに多いのが現実です。しかし、これらはロータリーの成功に欠かせない要素であり、なおざりにすれば、自らの存在を危うくすることになるでしょう。これを受けて、当地区でも現代に合った職業分類表の推奨版を作成する予定です。

私たちには選択肢があります。授けられたものを自分の元だけにとどめるか、またはそれを生かして自らが「世界へのプレゼント」となるかです。

私から皆さんへのお願いは、授けられたものを、入念に、賢明に、そして惜しみなく生かすことです。

Be a gift to the world

「世界へのプレゼントになろう」

ご清聴ありがとうございました。



神戸の港に咲く 10,000 発の花火を堪能

— みなと神戸海上花火観賞会を開催 —



8月8日土曜日に、神戸東ロータリークラブ家族委員会主催「みなと神戸海上花火観賞会」を神戸メリケンパークオリエンタルホテルにて、会員33名、ご家族86名、事務局2名参加のもと盛大に開催しました。

当日午後2時頃には横殴りの大雨となりましたが、夕方にはすっかり雨も上がり、時折日差しが絶好の花火日和となりました。

お料理はホテル自慢の和洋中のbuffet形式で、大人はアルコールを手に持ちテーブルからテーブルへと渡り鳥の様に会員及びその家族と親睦を深め、子供達は抽選で当たったおもちゃを持ち、当日知り合った子供達と楽しく賑わっ

ていました。

花火は10,000発と、例年通りの数ではありませんでしたが、内容は近年では抜群に良かったと私は思いました。

花火観賞後は特設バーに場所を移し、ひとときを過ごした後、名残惜しく解散しました。

最後に「みなと神戸海上花火大会観賞会」を開催するにあたり、ご協力くださった会員のみなさま、家族委員会のみなさま、特別にご協力くださった親睦委員会の菅野委員長、池田会員にここで感謝をし、報告を締めさせていただきます。

(家族委員長 林 伯正)



「会員増強・新クラブ結成推進月間」
に因んで

地区増強・拡大委員長 **野瀬 操**
(姫路西)

R I 2680 地区増強・拡大委員会委員長の野瀬でございます。クラブは姫路西ロータリークラブです。

本日神戸東ロータリークラブさんで「会員増強のスピーチ」をさせていただくことになり、お邪魔させていただきました。こちらは、109名もの会員がいらっちゃって、2680 地区№2のクラブで、増強委員長が理事というのは、他のクラブであまり聞きません。それだけ増強に力が入っていて、その成果が109名だと感動しています。

本題ですが、8月は今までは「会員増強・拡大月間」でしたが、本年度は「会員増強・新クラブ結成推進月間」と名称が変更されています。これはしばしば、増強と拡大の意味を勘違いされている方がいらっしゃるせいでしょうか？増強とは会員を増やす事で、拡大とは新クラブ結成の事です。

日本の1クラブ平均会員数は、39人で、2680地区のロータリアンは、2,838名。13グループ、クラブ数は73クラブですので、平均会員数は、日本と同じ39名です。新設クラブ設立要件の20名以下のクラブが、9クラブで、そのうち一

桁のクラブが2クラブとなっています。

それにも拘わらず、R Iは「拡大」をより具体的に「新クラブ結成推進月間」と変更しています。

いうまでもなく、R Iの仕事は

- ①奉仕理念の追求
- ②奉仕拠点の拡大
- ③ロータリークラブ間の情報媒介

この三つだけです。「奉仕拠点の拡大」＝「新クラブ結成」となります。例会時間の隙間・場所の隙間がある筈なので、新クラブ結成をと、丸尾ガバナーは月信に書いていらっしゃると思います。情報があればよろしくお願いします。

ロータリークラブには、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕といろいろな奉仕があります。右を向いても左を向いても「奉仕」「奉仕」と奉仕だらけです。奉仕のためにロータリークラブがあると考えている人もあるようです。

ここにいらっしゃる皆様方誰もが「奉仕に献身してやろう」「この世の不幸を取り除くために」、ロータリークラブに入会された訳ではないと思います。知り合いの方に紹介され、ロータリーだったら、そこそこカッコがつくし、知り合いも増えるし云々で、ご入会された方が殆どの筈です。私もそうでした。そして、それでいいと思います。ロータリーの創始者ポール・ハリスですら、会員の互助組織として始めたのですから。

しかし、入会してからズートこれでは問題です。只の会員から、ロータリアンに変身していかなければなりませんし、その過程で「これが私のロータリーだ」という、「自分自身のロータリー」を作る必要があります。そして、できるだけ多くの会員の「私のロータリー」をぶつけあって、クラブの財産にすることが、クラブ活性化の道だと思います。

ロータリーは簡単です。ポール・ハリスは、寂しかったから仲間を集めました。それも田舎の町や村からシカゴへやってきたお上りさん

で、大学出といえばポール・ハリスだけという、学歴もなく金もない人達が肩を寄せ合い、助け合ってスタートしたのがロータリーです。

そのロータリーに「奉仕」という鎧を着せるから難しくなるのです。

『仲のいい友が集まった。楽しい。何か物足りない。いいことをしよう。いいことをする為にはまず自分がいい人にならなあかん。いい人になるためには自分の職業を世のため人のためになるようにしよう。』これがロータリーの職業奉仕で「ロータリーの理念」が含まれています。他の奉仕クラブにないものです。社会奉仕・国際奉仕等々はその延長にすぎません。

ですからロータリーは、ポール・ハリスからポリオまで一本の線で繋がっています。それを途中で、プツンと切り取って、その一部だけ見るから、前後のつながりが難しくなるだけです。

4月29日の2015年地区研修・協議会 増強・拡大部門分科会でのグループディスカッションは活発で、その意見を集約すると、「女性会員の増強」、「会費・入会条件」、「入・退会時の対応」、「JC OB関係者の勧誘」、「数・量ではなく質」、「退会者の再入会」、「二代目・三代目経営者」、「例会開始時間」、「友人・仲間への声掛け」、「インターネットの活用」と大別されます。

具体的には、5月16日開催の「会員増強・拡大セミナー」で各クラブに配布しています。

また、増やすだけではなく、「退会防止」も増強に変わりはありません。健康上・職業上の理由で退会されるのは仕方ありませんが、「面白くないから」等の理由で退会されるのは防止しなければなりません。クラブとして謙虚に反省し、対処する必要があります。

そして、増強の際によく「質か量か」と議論されますが、「質」とは何でしょう。定款で「善良な成人で職業上良い世評を受けている人」が「質」の基準です。備かっているとか、功なり名を遂げた人とは、どこにも書いてありません。会員の質を高めていくには、毎週の例会・奉仕

活動の実践といったロータリー活動を通じてしかありません。ロータリーの奉仕理念を理解し、実践できるかが、ロータリアンの「質」を判断する基準ではないかと思います。ロータリーのおかげで、自分がいい方へ変わらなければ、時間と金をかけて入会している値打ちがありません。

ロータリアンは生まれるものではなく、各人それぞれが考え、行動して作っていくものではないのでしょうか？

また、「量」とはなんでしょう。ロータリークラブに定数はありません。量が増えれば、質が下がる。質に拘れば、量は減る。そんな馬鹿げた事はありません。ここにいらっしゃる会員総て、「質」がよくて入会されたのでしょうか。そんなことは無い筈です。

また、「若いからロータリーはまだまだ…」「女性だから」ということで、ロータリーに入会させない・しないというのはおかしいと思います。人間は今いる環境が最も良く、これを守ろうとするエゴの発想です。

会社でも現状維持、守りに入ったら淘汰されます。同じ職場で新しい人を入れなければ、1年ごとに年老いて衰退していきます。新技術を取り入れなければ、世の中から置いてきぼりになります。

ロータリーの会員増強は、クラブを衰退させない最低限の防衛策です。

『老タリー』と揶揄されないためにも、積極的に若い会員増強を推し進めて頂く事を願いますと共に、クラブ自治権の問題ですが、女性会員の入会もご検討願えたら幸いです。

神戸東ロータリークラブさんのますますのご発展を祈念申し上げて、つたないスピーチを終わりとさせていただきます。

— 第1回親睦会 —

北野・異人館街の「カフェ・テラス・ド・パリ」にて開催



2015年8月25日(火)18時より、神戸東ロータリークラブ第一回会員親睦会を神戸北野のフレンチレストラン「カフェ・テラス・ド・パリ」にて開催いたしました。

当日は、大型台風が西日本地区を南北に縦断した後となり、まだ風雨が多少残る中ではありましたが、総勢58名の参加を得て開催することが出来ました。

今年度、初の会員親睦会の開催となり、道上会長のご挨拶にはじまり、高石会員から素敵な乾杯のご発声をいただき、親睦会がスタート、歓談の半ばには、新入会員の小谷会員・河崎会員・鈴木会員より、一言ご挨拶をいただき、親

睦会を大いに盛り上げていただきました。

岩野副会長より中締めのご挨拶をいただき、最後は、ロータリーソング「手に手つないで」をソングリーダー友藤会員に合わせて全員で歌唱しました。また、お開きとなった20時には、すっかり風雨も治まり台風一過の清しい夜空のもと徒歩で帰路につく会員もおられたようです。

第一回の親睦会は、会員の皆様との親睦をさらに深めていただき、道上会長年度のスタートとして盛会に開催されましたことをご報告いたします。

(親睦活動委員長 菅野 和矢)



余韻会（俳句同好会）

平成二十七年七月二十三日 於 西村屋 花みかげ

奈落までベルの届きし昼寢覚	本郷 桂子
水打って今日の仕事の終りとす	執行 執艸
何かしら納得出来し昼寢覚	高石 潜菴
夕風やキャビンの窓に灯の点る	角田 伯堂
打水の溜まりを跳ねて力車行く	壺井 仙岳
打水のむなしく乾くアスファルト	松谷 泰山
打水に景の変はりし京の路地	吉井 聖倅
キラキラと鏡の中のサングラス	松原 氣宏
初ぜみの鳴きて見上げる青き空	池西 清栄
打水をする娘の姿ういういし	神品 平
梅雨じめりまとふ衣の重さかな	橘 恵子
忙中に我儘申し昼寢せん	村野 離翔
打水に一陣の風通り過ぎ	飯田 美音

余韻会（俳句同好会）

平成二十七年八月二十一日 於 西村屋 花みかげ

巫女も出て子らを並ばす宮相撲	本郷 桂子
流星と鳴門の橋を渡りけり	執行 執艸
トントンと子らの興ずる紙相撲	高石 潜菴
流れ星見たやうな気がする闇夜	角田 伯堂
入門も引退もあり大相撲	則岡 弘士
流星や穂高の嶺を貫きぬ	壺井 仙岳
度度の行き先変はる避暑の旅	松原 氣宏
同じ県勝ちて嬉しや大相撲	池西 清栄
流れ星一瞬間をさきにけり	神品 平
秋来るあと一息や身の疲れ	橘 恵子
星飛んでやさしき姉の召されけり	村野 離翔
流星に祈りを込めて平和の日	飯田 美音



写真と文 村元 信吾

「ベスパ」

友人より依頼されたベスパ（スクーター）の絵です。

ベスパと言えば「ローマの休日」のスクーターを思い出す方が多いと思いますが、華麗なデザインに惹かれ最新モデルを書いてみました。（題材はベスパHPからインスパイアです。）

CONTENTS

3役就任挨拶	1
4大奉仕委員長就任挨拶	6
ガバナー公式訪問	10
みなと神戸海上花火観賞会	12
会員増強・新クラブ結成推進月間	13
第一回親睦会	15
余韻会	16

編集後記

今年度第1号会報を発刊するにあたり、図らずも委員長としてその未熟さを露呈し、締切直前になって諸先輩の皆さまにご無理をお願いし多大なご迷惑をおかけするとともに、格別のご配慮ご協力を賜りました。深くお詫び申し上げ、また心より感謝申し上げます。

特に締切直前の私の不手際に、温かく手を差し伸べて下さった石橋会員、雑誌会報委員会メンバーの皆さんにこの場を借りてお礼申し上げます。

2号、3号と、より良い会報をお届けできるよう努めてまいりますので、先輩諸兄の忌憚ないご意見、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

雑誌会報委員長 弘田 芳裕